

「地域ではじめる・地域で広げる農福連携」 地域別交流会 in 北陸農政局

ノウ フク

農福連携の取組主体が増加する一方で、地域によって課題にバラつきが生じている中で、地域単位で設立される地域協議会が主体となり、地域の実情を踏まえた仕組みづくりに取り組んでいくことが期待されています。

そこで、北陸農政局では、農業者と障害者就労施設のマッチングや農業者の理解促進、マニュアルの作成により中間支援の質の向上に取組まれている「佐賀県の農福連携コーディネーター 藤戸小百合さん」をゲストに迎え、農福連携における中間支援組織の役割など北陸農福の発展の方向を探る座談会を開催します。



令和7年8月4日(月)

13:30～17:00(ハイブリット開催)



佐賀県



農業者と障害者就労施設のマッチングや

その後のフォローにより農福連携が県全域に拡大。

農業者の理解促進やマッチングマニュアルの作成により中間支援の質を向上。

概要

人を耕す

- 県農業経営課と県障害福祉課にコーディネーターを、県内6つの農業振興センターに農福連携担当者を配置し、JAと連携して福祉事業所と農家のマッチングを実施。
- 農福連携のコーディネーターが障害者に適した作業を選定し、作業時には一緒に作業をすることで、適切な支援・助言等を実施。

地域を耕す

- 地域の自立支援協議会就労支援部会やJAの生産部会等への定期的な研修や説明会を通じて、農業関係者と障害者就労施設の理解が深まり、良好なマッチングが促進。
- 県内に新たな協議会が発足し、農福連携の推進、中間支援の質の向上に寄与。
- 特別支援学校の教師、保護者、生徒への農福連携の理解促進に向けた取組を実施。

未来を耕す

- 県主導で中間支援体制を確立し、農家のニーズ聴取、作業内容の確認と単価の設定、マニュアル作成、契約書の作成、作業完了後の記録作成等、きめ細かな支援を実施。本スキームは他県の農福連携に取り組む協議会などにも共有。
- 県として農福連携技術支援者研修を開催し、専門人材を育成。
- 意欲がある農家に対し、JGAPや6次産業化の認証取得を支援。

成果

- マッチングへの参加経営体は、農業経営体数が取組開始当初の14戸(R3)から36戸(R5)へ、福祉事業所数は、13戸(R3)から38戸(R5)へ増加。
- マッチング件数は、取組開始当初の25件(R3)から67件(R5)へ増加。
- マッチング実績による売上高は、取組開始当初の480万円(R3)から660万円(R5)へ増加。
- マッチング後も農家と福祉事業所双方の信頼関係が深まるよう支援し、農家や利用者からも好評。
- 出荷調製等の作業を福祉事業所に依頼したことにより、品質向上、生産性向上に寄与。
- 「中間支援者のための農福連携マッチング推進マニュアル」を、県HPで公開。スキームが全国の農福連携に取り組む協議会・団体に共有され、中間支援の質向上に貢献。

基本情報

農福連携取組開始：R3年

主力商品：(農作物)きゅうり、アスパラガス、みかん等

特徴的な取組：中間支援